



【スペシャル・インタビュー】
先駆者たち Vol.02
Interviews with Today's Pioneers
～「時代のバイオニア」たちに聞く～

宮崎 哲弥

Tetsuya Miyazaki

深く怒ることのできる フェアで公共的な 議論文化を育てたい

多くのメディアに出演し、辛口で正鵠を得たコメントで注目されている評論家の宮崎哲弥氏。ポピュリズムや表層的な議論が跋扈するなかで、現代の評論活動の課題に挑んだ思いとは何だったのか。

知識と言葉の豊かさを、 どう伝えるかが 現代の評論の課題

頂いた名刺には、「評論家 宮崎哲弥」とあった。コラムニスト、アナリストなど横文字の肩書きや、評論家でも政治評論家や文芸評論家など「冠評論家」の肩書きでコメントする人が多いなかで、「評論家」という3文字の直球で名乗る人は久しい。

「評論家」には、手垢のついたいかわしさが漂っている。でも現在、それを意識的に名乗っているのは私ぐらいでしょう。というのも、何も生産しないで語りたことだけを語る評論家というポジションが私には向いているし、これならば私にも一定の役割を果たせると思えるからです」

その役割とは何か。「どのような分野であれ、外部の視点がないと閉塞していきます」。根底にあるのが「よそ者であることを好む」という嗜好だ。状況から影響を受けず、深い関わりも持たない。ピン（トップ）に立つのは好まず、五、六番手ぐらいの位置にいるのが心地よいと感じる。「よそ者」は一見ネガティブな存在に見えるが、よそ者だからこそ論議を深めたり、論議の価値を高められるということか。

政治からスポーツまでさまざまなコメントを求められる。専門は政治哲学と仏教

論であり、初期はサブカルチャーの評論が中心だった。幅広いジャンルへの取り組みは、「世のニーズに対応してきただけ。相應の努力もしたけど、極端に飽きっぽい性格だからこそ持続した」という逆説で答えておきましょう」と笑う。

かつて新聞のインタビュで、自らの評論活動を「総攻撃型 陸・海・空イズム」と表現したことがある。雑誌、ラジオ、テレビ等々、あらゆるメディアでの露出を厭わないという意味だ。

「当時は言説の内容をいかに最適なかたちで『届けるか』に関心があつて、広範な露出とメッセージ効率の均衡点を探っていたのです。後続の世代の若手言論人たちは、そういう割り切りを感覚的に掴んでいて羨ましい気もする」と語る。

偶然性を飼ひ慣らすのが 上手い人こそ先駆者になる

10年ほど前から大学で政治哲学を講義している。学生たちに一貫して問い、試みているのは、「フェアで公共的な意味を持つ議論のやり方を身につけること」だ。ベストセラーになるはるか前からマイケル・サンデルに私淑し、その議論手法を学生と共に実践し続けている。

「私の大好きな内村鑑三は『日本人は深く静かに怒ることができない』と言って



宮崎 哲弥(みやざき てつや)
1962年、福岡県久留米市生まれ。慶應義塾大学文学部社会学科卒。政治哲学、仏教論、サブカルチャー分析を主軸とした評論活動をテレビ、ラジオ、雑誌などで行う。1996年に処女評論集『正義の見方』を刊行。近著は『宮崎哲弥 仏教教理問答』『知的唯仏論』(サンガ)など。『スッキリ!!』『ひるおび』『ありえへん∞世界』などのテレビ番組に出演中。

いる。浅くて皮相な議論に終始するのは、「自己とは何か」「社会は何のためにあるのか」といった根源を洞察していかないからだ。その限界を打破し、深く静かに怒り、そして論じ合う文化を育てたいと考えている」

宮崎さんが持つ「先駆者像」とは、ゴールや目的地を持たずに旅を続けている人だ。前人がおらず、そこに道はなく、だから破天荒になる時もある。しかしそれは、

「漂流」とは違う。ある方向に行こうとしても行けないことがあるのを承知している。言わば、偶然性を良しとしている。「偶然性を飼ひ慣らすのが上手い人こそ先駆者になっていくのではないか」。それは同級生に「お前は結婚は1年半、仕事は3年しかもたない」と予言されたにもかかわらず、「どういうわけか20年近くも続いている」。そんな自身の姿とも重なっているように見える。

Contents

- 02 スペシャル・インタビュー【先駆者たち】
宮崎哲弥 (評論家)
- 04 Special Feature
**豊かさと環境の両立
新たなイノベーションへ**
地球環境の未来に貢献～
【Kawasakiグリーン製品促進活動】開始
- 09 時代を切り拓く【Epoch Maker】
産業用ガスタービン
- 10 【TechnoBox】
**新世代鉄道車両用台車
efWING**
- 12 【川に見る・日本の四季】
会津若松から「夏」を追う
- 14 HOT TOPICS

【表紙】
川崎重工が製造するBK117 C-2型ヘリコプター(岐阜工場にて)
→詳しくは【Special Feature】(4～8ページ)をご覧ください

*マイケル・サンデル
アメリカの哲学者・政治哲学者・倫理学者。ハーバード大学教授。邦訳「これからの『正義』の話しよう!」(2011年)がベストセラーに。